

《担当者名》 高橋祐輔、田中真樹、坊垣暁之

### 【概 要】

医療現場では、些細なミスやその重なりが過誤または事故に繋がる可能性がある。一方で、近年の法改正により、臨床検査技師の検体採取における業務内容が拡大した。臨床検査技師による検体採取は、質の高い検査精度の保証を担保する上で重要である一方で、医療事故が起こる可能性もある。本講義は、医療安全の歴史や現状から基本概念を学び、安全管理に必要な知識および技術の習得、さらに検体採取（採血を除く）に必要な知識と技術習得を目的とする。また、実習では、皮膚表在組織病変部からの検体採取、咽頭・鼻腔拭い液の採取、および鼻腔吸引液の採取を、学生間でおこない、採取者および患者両面の立場・気持ちを理解する。

### 【学習目標】

- 1) 医療倫理と医療安全について説明できる。
- 2) 検体採取における臨床検査技師の法的責任について説明できる。
- 3) 皮膚表在組織、咽頭および鼻腔の構造について理解できる。
- 4) 皮膚表在組織病変部からの検体採取、咽頭・鼻腔拭い液の採取、および鼻腔吸引液の採取が安全にできる。
- 5) 各採取時の、患者への配慮について理解できる。

### 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	総論 医療倫理	・ 医療倫理の基本概念	田中真樹
2	総論 医療安全	・ 医療安全の概要 ・ 医療事故事例 ・ 安全管理	坊垣暁之
3	総論 法的知識と責任範囲	・ 医療事故への対応 ・ 臨床検査技師の法的責任とその範囲	高橋祐輔
4	検体採取について 皮膚表在組織病変	・ 採取目的と関連疾患 ・ 組織構造 ・ 採取用器具と手技 ・ 患者への配慮 ・ 検体の搬送方法	坊垣暁之
5	検体採取について 咽頭拭い液	・ 採取目的と関連疾患 ・ 組織構造 ・ 採取用器具と手技 ・ 患者への配慮 ・ 検体の搬送方法	田中真樹
6	検体採取について 鼻腔拭い液	・ 採取目的と関連疾患 ・ 組織構造 ・ 採取用器具と手技 ・ 患者への配慮 ・ 検体の搬送方法	高橋祐輔
7	検体採取について 鼻腔吸引液	・ 採取目的と関連疾患 ・ 組織構造 ・ 採取用器具と手技 ・ 患者への配慮 ・ 検体の搬送方法	高橋祐輔
8	検体採取について 便の採取、その他	・ 採取目的と関連疾患 ・ 組織構造 ・ 採取用器具と手技 ・ 患者への配慮 ・ 検体の搬送方法	高橋祐輔
9	検体採取実習 皮膚表在組織病変	・ 検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
10	検体採取実習 皮膚表在組織病変	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
11	検体採取実習 咽頭拭い液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
12	検体採取実習 咽頭拭い液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
13	検体採取実習 鼻腔拭い液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
14	検体採取実習 鼻腔拭い液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
15	検体採取実習 鼻腔吸引液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之
16	検体採取実習 鼻腔吸引液	・検体採取実技	高橋祐輔 田中真樹 坊垣暁之

#### 【評価方法】

実習態度 20%

レポート 20%

定期試験 60%

実習では、実習内容と課題を記載したプリントを配布する。検査の目的、方法と材料、考察、引用文献等を必ず記載すること。課された課題に適切に取り組み、実習内容についての考察度合を5段階評価する。また、定期試験にて、講義と実習で学んだ各種検体採取技術・知識の習得度を評価する。

#### 【備考】

教科書：実習時には、実習内容と課題を記載したプリントを配布する。

諏訪部章ら編「臨床検査学講座 医療安全管理学」医歯薬出版 第1版 2016年

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「検体採取者のためのハンドブック」じほう 第1版 2016年

参考書：一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「臨床検査技師のための医療安全管理教本」じほう 第1版 2017年

その他：講義用ノート（B4サイズ）を用意すること。

実習時に配布するプリントをレポートとして提出し、返却後にノートにファイリングまたは貼付けすること。

一班は6名とし、全実習班を3つに分け各教員が指導を行う。検体採取実技は、学生同士で行う。

#### 【学習の準備】

講義8回および実習8回を行う。各講義前には予習を、実習前には講義内容の復習をしておくことが望ましい。さらに、各実習内容に関連する知識の復習や、使用する試薬の安全性および実習方法の手順などを、教科書や参考書などで事前に調べ準備しておくことが望ましい（予習・復習は各60分程度）。

#### 【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

（DP4）臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

（DP6）臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。